

白ねぎ管理情報 No.2

R5年度産に関する管理情報は、特に重要なことの再確認、お知らせのみを掲載しますので、詳細は、「しろねぎ」栽培マニュアルをご参照ください。育苗、定植に係るマニュアルの掲載場所は6～18ページになりますのでご覧ください。

マニュアルをお持ちでない方は最寄りのJA、富山農林振興センターまでお問い合わせください。

1 育苗期のハウス内温度管理 →高温による焼け、降霜による枯れに注意

- ・昼間：30℃以上にしないことが特に大事。
- ・夜間：霜害対策として、ハウス内にトンネルを設置し、保温に努める。

2 育苗後半の定植に向けた準備(順化处理：霜にあっても枯れなくする処理)

本葉2枚目の葉長が本葉1枚目の半分まで伸長してきたら順化を開始してOK

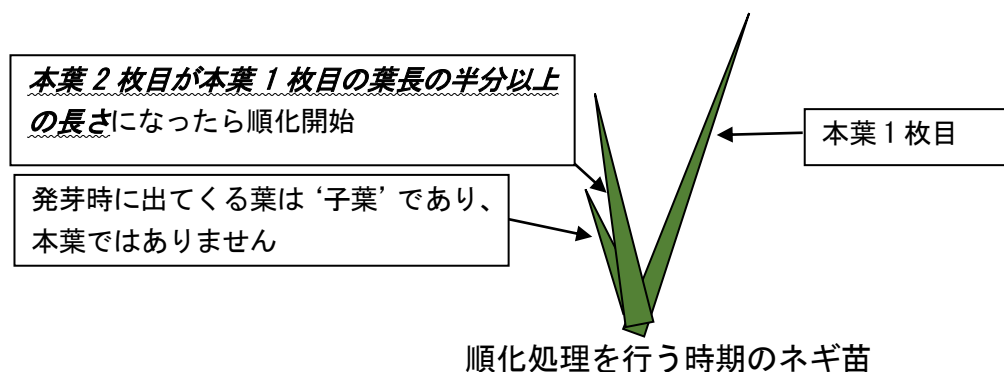
→苗の徒長抑制効果もあります。植え遅れになっても苗の老化も遅くなります。

ハウスサイドをできるだけ昼夜開放して外気に慣らしします。

霜、低温注意報が発令されていない時：ハウスサイド昼夜全開

霜、低温注意報発令時：ハウスサイド夜間封鎖

※翌朝の注意報は17:00に气象台より発表されますのでテレビ等で確認。



※順化開始10日後から定植可能となります。順化開始10日以降も順化を続けると、ゆっくり生育することから苗の老化を緩和する効果がありますので定植する日まで順化は続けます。

※3～4月は周期的に天気に変化し、定植日はワンチャンスになることが多いので、週間天気予報に特に注意し、適期に確実に定植する。

※育苗中に葉が長くなりすぎて定植直後に葉寝てしまうと霜害を受けやすくなるため、定植後葉が寝るくらい長くなった苗は、定植直後から葉が立つ長さに（草丈12～15cmくらい）剪葉しましょう!!

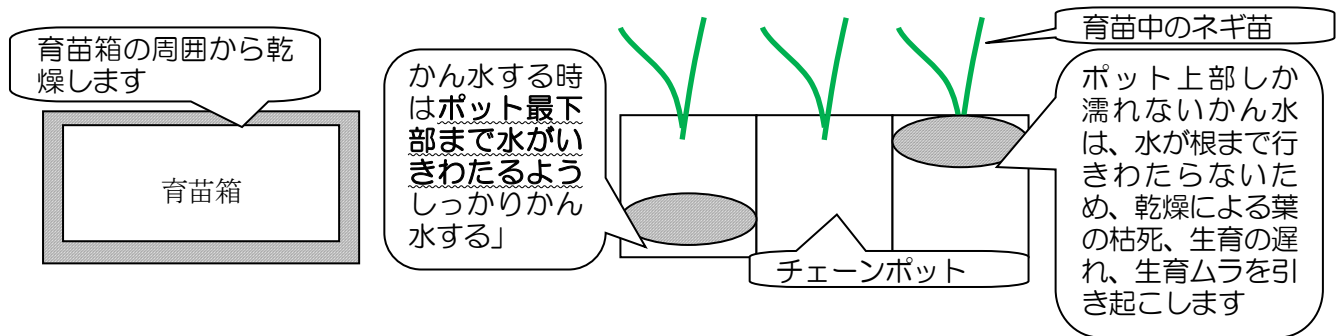
3 水管理

育苗箱の周囲から乾燥してくるので、最も乾いていそうな育苗箱の周囲の湿り具合を土中に指を突き刺して確認し、内部に湿り気を感じ、さらに指が土で黒く汚れるくらいぬれていたら、前回のかん水から数日経過していてもかん水しない!!（1～2月の育苗では5日以上かん水不要な場合もある）

また、育苗箱の周囲の湿り具合を土中に指を突き刺して確認し、指が土で汚れないくらい乾いた（さらさらパラパラ）苗箱が3枚程度あったら、他の育苗箱もある程度乾燥してきていると予想されるので、全体をかん水する。かん水量は、育苗箱の下層まで水がいきわたるようにしっかりかん水する（1回あたりのかん水量の目安：一箱あたり1～0.8ℓ、かん水直後土を指で挟むと水がしたたり落ちるくらいのかん水量）。

上部・サイドの斉一散水装置を用いてかん水する時は、空の苗箱にビニールシー

トを敷き、かん水を行い、一箱あたり 1～0.8ℓのかん水となるよう確認。



4 圃場の選定と定植前の圃場準備

・圃場の立地条件（圃場周囲の水稻作付の有無（隣接する水田からの漏水）、過去の用水等からの浸水の状況、日照条件、風当たり等）も考慮し、必ず排水性の良い、耕土の深いほ場を選ぶ。

・なるべく連作にならないような圃場を選び、3～4年以上の輪作が望ましい。

・春先は気温が低いため、耕起による除草は土中で雑草が生存し、地表に再発生するので耕起前に必ずラウンドアップマックスロード原液 200～500 ml/10a を水 50～100ℓ/10a で希釈し枯殺します。

散布後 6 時間以内に降雨があると効果が劣りますので天気予報に注意して散布します。



このくらいの大きさになってから除草剤を散布しても手遅れ・・・(大きな枯れ株が定植作業の邪魔をします



このくらいの大きさのうちに除草剤で枯らしておきましょう

5 7月どりねぎについて

一部の方で別添「白ねぎの 10 月まき 7 月どり作型栽培マニュアル」に基づき、試験栽培を実施中と思いますが、3 月中のできるだけ早い時期に定植すると 6 月下旬～7 月上旬より収穫できるので、特に早期収穫をお考えの方は、週間天気予報に注意してご準備ください。遅霜のシーズンなので上記（2 育苗後半の定植に向けた準備）のとおり、低温順化処理は徹底してください。

※霜害回避の観点から、定植後葉が立つように剪葉しましょう!!

農薬の使用基準（使用回数、時期等）はラベル等を確認し遵守するとともに栽培記録簿への記帳をお願いします!!

問合せ先：J A アルプス営農部営農企画課

Tel 076-472-5480

富山農林振興センター園芸振興班

Tel 076-444-4523

白ねぎ（10月まき7月どり）

栽培暦

月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
主な作業	○					△——	△	▲ ▲	▲	□—□

○は種、△定植、▲培土、□収穫

1. 育苗

(1) 播種方法

夏扇パワーもしくは夏山一本太を用い、10/1～15の間にチェーンポット CP303 に2粒/穴では種。

(2) 育苗管理

基本的に「しろねぎ栽培マニュアル」に準じた管理を実施するが、耐雪型ハウスで育苗を実施し、ハウス内部での加温、トンネル被覆は行わない。また、12月中旬、1月中旬、2月中旬、3月上旬、3月下旬に草丈が15cmになるように剪葉を行い、剪葉後、やさい燐加安 S540 の500 倍液（水2ℓ+やさい燐加安4g）を育苗箱1枚当たり2ℓ灌注。

- ・剪葉が遅れると葉が倒伏し、定植し辛くなるので遅れないよう注意。
- ・剪葉は庭木剪定用電動バリカンを用いると便利。
- ・育苗中に灰色カビ病が発生することがあるので、1月以降ジマンダイセン水和剤、ダコニール1000など予防効果のある殺菌剤を10～14日おきに散布する。

2. 定植（下記以外は白ねぎ栽培マニュアルに準ずる）

(1) 定植準備と実施時期

早春に耕起うね立てができるよう、排水対策を前年中に実施しておき、融雪後3～4月上旬の間にできるだけ早めに定植を終える。

(2) 肥培管理

表1 肥培管理

kg/10a

	基肥	追肥①	追肥②	施用量
発酵鶏糞	200			N成分：24.3kg/10a
炭酸苦土石灰	140			
なっちゃんエース	70			
やさい燐加安S540		20	30	

追肥①：定植25日後、追肥②：定植50日後

3. 生育管理の概要

(1) 定植25日後

うね間に接触型除草剤『プリグロックスL』を散布。追肥(表1参照)の実施。『スタークル粒剤』散布、土壌処理型除草剤『トレファノサイド乳剤』散布。

(2) 定植40～50日後

葉鞘径が10mmを確保したのを確認してから、『ダントツ粒剤』、『アリエッティ水和剤』を散布。追肥(表1参照)の実施。培土後に土壌処理型除草剤『トレファノサイド乳剤』を散布。

(3) 定植60～70日後

『スタークル粒剤』、『リドミルゴールドMZ』、『オリゼメート粒剤』を散布。培土後に土壌処理型除草剤を散布。

(4) 定植80～90日後(最終土寄せ)

土寄せ前に『Zボルドー水和剤』、『ベストガード粒剤』を散布。目標軟白長となるよう確実に培土する。